



Title	第67回 意匠学会大会報告
Author(s)	前崎, 信也
Citation	デザイン理論. 2026, 87, p. 88-93
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/103726
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

第 67 回 意匠学会大会報告

会期：2025 年 8 月 26 日（火）～ 28 日（木）

会場：京都女子大学（E 校舎 103, 104 教室）

大会実行委員会：前崎信也／青木美保子／成実弘至／二瓶晃／谷本尚子／三木順子



第 67 回意匠学会大会はテーマを「建築・アート・工芸の育ち方 ― 結果としてのサステナビリティ ―」として 8 月 26 日から 28 日の 3 日間、京都女子大学で開催した。3 日間全日、もしくはいずれかの日に参加した会員は 88 名であった。26 日と 28 日に実施した研究発表には、会員の外に研究発表の関係者や学会入会を検討している研究者の参加者が 5 名あった。研究発表は全 5 セッションで 18 名が、作品は 5 名が展示し 27 日に発表を行った。開催校の特別企画として学会員が指導する学生の作品のパネル展示を実施した。発表者や発表内容については以下の大会スケジュールを参照。



会長あいさつ



作品発表



京都迎賓館見学

2 日目の午前にはエクスカーションとして京都迎賓館の見学を行い 33 名が参加。建築時に現場担当者であった安田邦雄氏、京都迎賓館の営繕担当の竹内和輝氏から京都迎賓館の建築・素材・技術について詳細に解説していただいた。普段の一般公開には含まれていない場所も一部見せていただき、学びの多いエクスカーションとなった。

午後には非学会員も参加可とした公開シンポジウムを開催。学会員 35 名、一般 58 名が参加し、建築・アート・工芸のサステナビリティをテーマに 3 部構成で実施した。第 1 部は「京都迎賓館に見る伝統技術の 20 年」と題した。京都迎賓館の建築に関わった安田邦雄氏、鳥原嘉博氏が登壇。京都女子大学の前崎信也会員の司会で 20 年前に開館した京都迎賓館の建設時の話や、20 周年を迎えた館の現状や今後の課題についてお話をうかがった。

第 2 部は「育つ事例紹介」として、3 名の登壇者がアートや工芸が育ち、結果としてサステナブルを実現した事例について紹介した。四代田辺竹雲斎氏は竹を使った大規模なインスタレーション作品を制作した結果、素材の確保のために荒廃した竹林の再生が進んだ事例を解説した。西村圭功氏は若い職人が経験を積むために始めた「アサギ椀」プロジェクトが発展し、新しい漆器の需要喚起に成功した事例を紹介。久津輪雅氏は岐阜県の手仕事を未来につなげることを目的とした「技の環（ぎのわ）」の活動が、結果として日本全国の手仕事の未来を支える活動に広がっている現状を発表した。

第 3 部では、登壇者 5 名と司会が、日本の手仕事の現状と未来の在り方について意見交換を行った。



シンポジウム

大会プログラム

1日目 8月26日(火)

開会 会長挨拶

第1セッション(司会:青木 美保子)

- 01 日中美術における西王母と勝の変遷について
毛 嘉琪(京都女子大学)
- 02 死をめぐる装いの現在 ― エンディングドレスの意匠と変容
岸根 紗葵(上智大学大学院在学)
- 03 イギリスのサステナブル・ファッション教育の現状と課題について
成実 弘至(京都女子大学)

第2セッション(司会:前崎 信也)

- 04 明治期の九谷焼図案における英国デザインの受容 ― 松雲堂を事例として
竹内 有子(京都先端科学大学)
- 05 象彦にみる京の漆器業の近代化
星野 祥子(滋賀県立大学)
- 06 西陣絣の盛衰 ― 細分化された分業化の行く先
白須 美紀(京都女子大学)
- 07 装飾的紐結び「花結び」にみる価値創造
― 橋田正園氏および田中年子氏の活動軌跡を中心に
矢島 由佳(大阪大学大学院在学)

総会 司会:鈴木 禎宏(お茶の水女子大学)

2 日目 8 月 27 日 (水)

エクスカーショ

見学先 京都迎賓館

学生ポスター発表

作品発表 (司会: 江口 淑子)

01 卵殻プラスチックを用いた子供用食器の開発

村井 陽平 (同志社女子大学)

02 風土を綴る文字のかたち ― 図案文字をウェブメディアに応用する試み

WANG Haojue (京都芸術大学大学院在学)

03 家を繕う ― 青島工芸による京都・西陣の職住一体型町家改修の事例から

はしもとさゆり (奈良女子大学大学院在学)

04 追想への装身具 ― 銀閣寺参道空間の図式的形象試行

大森 正夫 (OOMORIS DESIGN / 京都芸術大学)

05 ガラス内部デザインの可能性 ― ガラス工芸の虚実技法研究

吉井 こころ (東京藝術大学)

公開シンポジウム

建築・アート・工芸の育ち方 ― 結果としてのサステナビリティ

第 1 部 鼎談 | 京都迎賓館に見る伝統技術の 20 年

前崎 信也 (京都女子大学生生活造形学科教授)

安田 邦雄 (京都迎賓館 庶務課設備担当補助 / 元安井杣工務店京都迎賓館現場担当)

鳥原 嘉博 (株式会社興石指物部・指物師)

第 2 部 育つ事例紹介

四代 田辺竹雲斎 (竹工芸家 / アーティスト)

西村 圭巧 (漆芸家 / アーティスト)

久津輪 雅 (岐阜県立森林文化アカデミー教授)

第 3 部 ディスカッション | 建築・アート・工芸の育ち方

3日目 8月28日(木)

第3セッション(司会:野口 企由)

- 08 1950年代の丹下健三の著作にみる伝統論の変遷
羽藤 広輔(信州大学)
- 09 G.Th. リートフェルトの商業空間およびインテリアについて
佐々木 一泰(滋賀県立大学)
- 10 内田繁とホテル《イル・パラッツォ》
— アルド・ロッシとのコラボレーションがもたらしたもの
橋本 啓子(近畿大学)
- 11 インダストリアルデザインとインダストリアルインテリア
— SNS投稿写真からみた大衆における「インダストリアル」の消費
神野 由紀(関東学院大学)

第4セッション(司会:成実 弘至)

- 12 京都高等工芸学校におけるアメリカデザインの受容
和田 積希(京都工芸繊維大学美術工芸資料館)
- 13 自由, 調和, 秩序, 計画
— ニコラウス・ペヴスナーが戦時下に綴った戦後復興の指針
近藤 存志(東洋大学)
- 14 時間意識の多層構造と「多層時間モデル」
川島 洋一(福井工業大学)
- 15 「触覚のデザイン」の構想におけるメディア・アートの有用性
二瓶 晃(京都女子大学)

第5セッション(司会:二瓶 晃)

- 16 書籍デザインの転換期 — “The Art of Book”(1914)を手掛かりに
今井 美樹(大阪工業大学)
- 17 ハインリヒ・フォーゲラーによる雑誌『インゼル』の扉絵分析
— ケルムスコットプレス版本との比較を通して
深谷 佳那(関西学院大学大学院在学)
- 18 タイポグラフィから読み解く東アジアの文化的変容
— 韓国・日本・中国の比較研究
徐 慧(滋賀県立大学)

閉会 会長挨拶